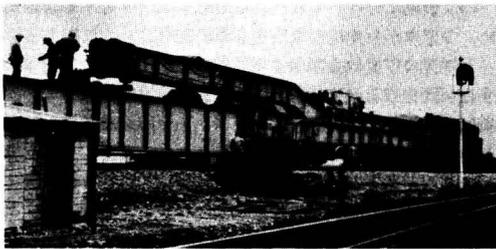
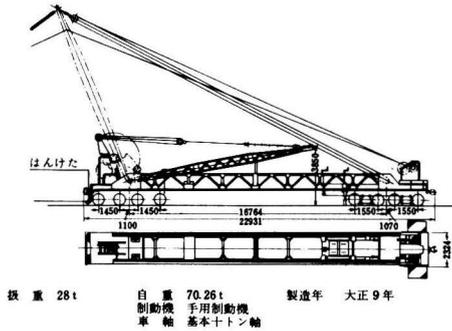


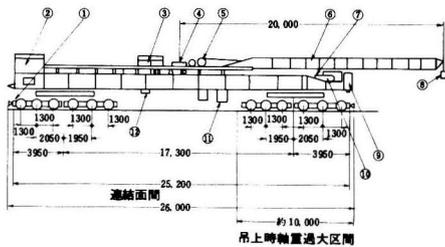
はんけた・PCけたの新設および交換のいずれでも施行できるように設計製作されたもので、昭和35・5日立製作所笠戸工場で2両完成した。

図-1 ソ1形操重車



ソ200形操重車

図-2 同上詳細図



- ① レールクラップ
- ② バランスウエイトボックス
- ③ 自動巻上げ装置の主機
- ④ 発電機
- ⑤ 巻上機
- ⑥ フーム
- ⑦ 後部運転室
- ⑧ つり金具
- ⑨ フォトリレー
- ⑩ 左自動電動機
- ⑪ フォトリレー用高圧ポンプ
- ⑫ 転車台

性能

(1) 最大扱い荷重

車端よりのブーム突出長さ	扱い荷重
1. 20m±0.25m	70t
9. 15m±0.25m	25t
12. 25m±0.25m	30t

(2) 巻上げ高さ

3.5m

(3) 最大寸法

長さ(連結面間)	26,000mm
幅	2,820mm
高さ	4,025mm

(4) 軌間

1,067mm

(5) 連結器高さ

880mm

(6) 最大軸重(空車回送時)

11.5t

(7) 自重(装備重量)

130t

(小林正一)

はちおうじかんりしょ 八王子管理所 東京鉄道管理局の地方機関。その担当業務は、鉄道管理局と同様な業務であるが、広報・法務・厚生・出納(諸給与を除く)・決算・外務・設計・管財等の集中処理を妥当とする業務は、東京鉄道管理局の本局で処理することとしている。また、輸送関係業務については、月間計画以上の輸送計画は本局において行ない、輸送指令は管理所に指令台を設置して指令を行なっている。

所管区域は、南武線(尻手・浜川崎間を除く)・横浜線・相模線・八高線(毛呂・倉賀野間を除く)・川越線・青梅線および五日市線である。

管理所の組織は、本所に所長、次長、総務課、運輸課、施設課を置くほか、線区経営主任を南武線、横浜線、相模線、八高・川越線、青梅・五日市線の5線区に置いて、当該線区の現場管理を担当させている。また、管理所に所属する現業機関として、駅のほか、車掌区4、機関区2、電車区2、保線区2が置かれている。

この管理所の設置の経緯としては、三河島駅構内列車衝突事故特別監査報告書および昭和36年度日本国有鉄道監査報告書に大要し鉄道管理局の現場管理体制について改善を加え、とくに東京鉄道管理局のように業務量の膨大な鉄道管理局の組織について検討すべきである。]のような指摘があったので、慎重審議の結果、昭和38・3・1 管理所の設置に踏み切ったものである。

その設置の趣旨は、線区経営組織をさらに徹底させることによって東京鉄道管理局の特殊性を解消することにあった。すなわち、線区経営組織の設置は、支線区については、その経営に必要な権限を大幅に委譲して自主的な運営を行なわせ、鉄道管理局はその主力を主要線区の経営改善に傾注することにそのねらいがある。東京鉄道管理局においては、相模線管理所および青梅・五日市線管理所を設置し、相当の成果をみつつあったが、線区経営組織の考え方をさらに押し進めて複数の支線区を統合した経営組織を設け、鉄道管理局と同程度の権限および業務を担当させ、本局の負担を軽減することによって東京鉄道管理局の業務が膨大なことから生じている現場管理上の問題点の解消に努めることであった。(宮坂正直)

はちまんせん 八幡線 滋賀県甲賀郡甲西町から同県近江八幡市に至る国鉄自動車路線であって、所管する水口自動車営業所は甲賀郡水口町にある。

1 区間・キロ程および沿革

東洋陶器前～元八幡 20.6km

昭和12・8・11 開業

近江八幡～小幡町～元八幡

2.6 昭33・10・7

保健所前～土田口 0.4 昭

40・7・1

本路線は昭和38・4・10 亀草線

から分離した。

2 営業範囲

旅客および手小荷物の取扱い

をしている。

3 使命

東海道本線近江八幡駅と草津線三雲駅を結ぶ短絡路線として、

地域開発の使命を有している。

4 特長

沿線は京阪地区のベッドタウンとしての発展途上にあり、

近江八幡市は近江商人発祥の地で知られている。



(熊沢 勇)